TADOKU JUNIOR　イギリスの昔話　★★★☆☆ ふつう　701語

Lazy Jack

なまけもののジャック

Joseph Jacobs（1890年の本）　**原文そのまま**　朗読：Joy Chan

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　なまけもののジャックは、もらったお礼をいつもへんなはこび方でだめにしてしまいます。でも、そのへんてこさが思わぬしあわせをよんで……。



Once upon a time there was a boy whose name was Jack, and he lived with his mother on a common. They were very poor, and the old woman got her living by spinning, but Jack was so lazy that he would do nothing but bask in the sun in the hot weather, and sit by the corner of the hearth in the winter-time. So they called him Lazy Jack. His mother could not get him to do anything for her, and at last told him, one Monday, that if he did not begin to work for his porridge she would turn him out to get his living as he could.

This roused Jack, and he went out and hired himself for the next day to a neighbouring farmer for a penny; but as he was coming home, never having had any money before, he lost it in passing over a brook. “You stupid boy,” said his

mother, “you should have put it in your pocket.” “I'll do so another time,” replied Jack.

On Wednesday, Jack went out again and hired himself to a cow-keeper, who gave him a jar of milk for his day's work. Jack took the jar and put it into the large pocket of his jacket, spilling it all, long before he got home. “Dear me!” said the old woman; “you should have carried it on your head.” “I'll do so another time,” said Jack.

So on Thursday, Jack hired himself again to a farmer, who agreed to give him a cream cheese for his services. In the evening Jack took the cheese, and went home with it on his head. By the time he got home the cheese was all spoilt, part of it being lost, and part matted with his hair. “You stupid lout,” said his mother, “you should have carried it very carefully in your hands.” “I'll do so another time,” replied Jack.

On Friday, Lazy Jack again went out, and hired himself to a baker, who would give him nothing for his work but a large tom-cat. Jack took the cat, and began carrying it very carefully in his hands, but in a short time pussy scratched him so much that he was compelled to let it go. When he got home, his mother said to him, “You silly fellow, you should have tied it with a string, and dragged it along after you.” “I'll do so another time,” said Jack.

So on Saturday, Jack hired himself to a butcher, who rewarded him by the handsome present of a shoulder of mutton. Jack took the mutton, tied it to a string, and trailed it along after him in the dirt, so that by the time he had got home the meat was completely spoilt. His mother was this time quite out of patience with him, for the next day was Sunday, and she was obliged to make do with cabbage for her dinner. “You ninney-hammer,” said she to her son; “you should have carried it on your shoulder.” “I'll do so another time,” replied Jack.

On the next Monday, Lazy Jack went once more, and hired himself to a cattle-keeper, who gave him a donkey for his trouble. Jack found it hard to hoist the

donkey on his shoulders, but at last he did it, and began walking slowly home with his prize. Now it happened that in the course of his journey there lived a rich man with his only daughter, a beautiful girl, but deaf and dumb. Now she had never laughed in her life, and the doctors said she would never speak till somebody made her laugh. This young lady happened to be looking out of the window when Jack was passing with the donkey on his shoulders, with the legs sticking up in the air, and the sight was so comical and strange that she burst out into a great fit of laughter, and immediately recovered her speech and hearing. Her father was overjoyed, and fulfilled his promise by marrying her to Lazy Jack, who was thus made a rich gentleman. They lived in a large house, and Jack's mother lived with them in great happiness until she died.

和訳 なまけもののジャック（Lazy Jack）

むかしむかし、ジャックという男の子がいて、村はずれの野原でおかあさんとくらしていました。二人はとてもまずしく、年とったおかあさんは糸をつむいでくらしをたてていました。けれどもジャックはとてもなまけもので、暑いときはひなたぼっこばかり、冬はだんろのすみにすわってばかりで、何もしようとしませんでした。それでみんなはジャックを「なまけもののジャック」とよんでいました。おかあさんがいくら言っても、ジャックは何も手つだおうとしません。とうとうある月曜日、おかあさんは、自分のおかゆの分くらいはたらきはじめないなら、家から追い出して、自分でなんとかくらしをたてさせるよ、と言いました。

これにはジャックもあわてて、外へ出ていき、次の日1ペニーで近くのお百姓さんのところではたらくことにしました。ところが家に帰るとちゅう、それまでお金を持ったことがなかったので、小川をわたるときにそのお金をなくしてしまいました。「ばかな子だねえ」とおかあさんは言いました。「ポケットに入れておけばよかったのに。」「こんどはそうするよ」とジャックは答えました。

水曜日、ジャックはまた出かけていって、牛かいのところではたらきました。牛かいは一日のはたらきのお礼に、ミルクの入ったつぼを一つくれました。ジャックはつぼを受けとると、上着の大きなポケットに入れたので、家につくずっとまえに、ミルクは全部こぼれてしまいました。「あれまあ！」とおかあさんは言いました。「頭にのせてはこべばよかったのに。」「こんどはそうするよ」とジャックは言いました。

そこで木曜日、ジャックはまたお百姓さんのところではたらきました。お百姓さんは、はたらいたお礼にクリームチーズをくれるとやくそくしました。夕方、ジャックはチーズを受けとると、頭にのせて家に帰りました。家につくころには、チーズはすっかりだめになっていました。とちゅうでおちてなくなったところもあれば、かみの毛にからまってしまったところもありました。「このおばかさん」とおかあさんは言いました。「手でそうっと気をつけてはこべばよかったのに。」「こんどはそうするよ」とジャックは答えました。

金曜日、なまけもののジャックはまた出かけていって、パン屋さんではたらきました。パン屋さんは、お礼に大きなオスネコを一ぴきくれただけでした。ジャックはネコを受けとって、手でそうっと気をつけてはこびはじめました。けれども少しすると、ネコがひどくひっかいたので、はなすしかありませんでした。家に帰ると、おかあさんは言いました。「おばかさんだねえ、ひもでむすんで、うしろに引っぱってくればよかったのに。」「こんどはそうするよ」とジャックは言いました。

そこで土曜日、ジャックは肉屋さんではたらきました。肉屋さんはお礼に、ヒツジのかた肉という、りっぱなおくりものをくれました。ジャックはその肉をひもでむすんで、どろの中をうしろに引きずってきたので、家につくころには、肉はすっかりだめになっていました。こんどばかりは、おかあさんもすっかりがまんできなくなりました。次の日は日曜日だというのに、夕食はキャベツだけですませなければならなかったからです。「このとんま！」とおかあさんはむすこに言いました。「かたにかついでくればよかったのに。」「こんどはそうするよ」とジャックは答えました。

次の月曜日、なまけもののジャックはもう一度出かけていって、牛かいのところではたらきました。牛かいは、ほねおりのお礼にロバを一頭くれました。ジャックはロバをかたにかつぎあげるのに苦労しましたが、とうとうかつぎあげて、もらったロバをかついで、ゆっくりと家にむかって歩きだしました。さて、その帰

り道のとちゅうに、お金持ちの男の人が、ひとりむすめとくらしていました。むすめは美しい人でしたが、耳が聞こえず、話すこともできませんでした。むすめは生まれてから一度もわらったことがなく、お医者さんたちは、だれかがわらわせないかぎり、むすめはけっして話せるようにならないだろう、と言っていました。ジャックが、ロバの足を空につきだしたまま、ロバをかついで通りかかったとき、むすめはちょうどまどから外を見ていました。そのすがたがあまりにもおかしくてへんてこだったので、むすめはぷっとふきだして大わらいし、たちまち話すことも聞くこともできるようになりました。おとうさんは大よろこびして、やくそくどおり、むすめをなまけもののジャックと結婚させました。こうしてジャックはお金持ちのだんなさまになりました。二人は大きなおやしきでくらし、ジャックのおかあさんもいっしょに、なくなるまでとてもしあわせにくらしました。

たんご と クイズ　なまけもののジャック

penny ペニー（お金）	**milk** ミルク	**cheese** チーズ
cat ネコ	**string** ひも	**cabbage** キャベツ
donkey ロバ		

Q1 ジャックが頭にのせてはこんだものは？

① ミルク　② チーズ　③ ネコ

Q2 ヒツジの肉がだめになったのはどうして？

① ひもで引きずってきたから　② ネコに食べられたから　③ 川におとしたから

Q3 お金持ちのむすめがわらったのはどうして？

① ジャックがうたをうたったから　② ジャックがころんだから　③ ジャックがロバをかついでいたから

こたえ

Q1　②　ジャックはクリームチーズを頭にのせて帰りました。でも、家につくころにはかみの毛にからまって、だめになっていました。

Q2　①　ネコのときに言われたとおり、肉をひもでむすんでどろの中を引きずってきたので、だめになってしまいました。

Q3　③　ロバを足を上にしてかついで歩くジャックのすがたがおかしくて、むすめは大わらいしたのです。

原田英語の多読ベストジュニア
本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。
haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #7439（Joseph Jacobs、1890年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Joy Chan（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。